

しょうせんがっこう 商船学校

航海士、機関士などの船舶職員を養成する学校の総称。1984年現在、東京、神戸の2商船大学が高級の船舶職員を、富山、鳥羽、広島、大島(山口県)、弓削(愛媛県)の5商船高等専門学校が中級の船舶職員を養成している。いずれも国立である。歴史的には東京商船大学の前身校をたんに商船学校と称した時期(1886-90、1896-1925)が長かったため、商船学校といえは同校をさすことが多い。東京商船大学の歴史は古く、1875年に、国際航路の船舶職員養成のために政府が補助金を与えて設立させた三菱商船学校に始まる。82年官立に移管、東京商船学校と改称、その後1925年に文部省所管の東京高等商船学校と改称するなど、所管省、名称に変遷があったが、1920年に設立された神戸高等商船学校とともに、日本の外洋航路の高級船舶職員の大部分を養成してきた。第2次大戦後の49年に新制大学となって商船大学と称し、57年東京商船大学と現在名になった。神戸高等商船は、1945年に清水高等商船(1943)とともにいったん東京高等商船に統合されたが、52年同校の伝統を継ぐ神戸商船大学が設立された。東京・神戸両商船大学は、航海実習が長期にわたる関係で当初修業年限を4年6ヵ月としていたが、76年よりこれを4年とし、海技免許取得のための航海実習は修業年限6ヵ月の乗船実習科で行う方式に改めた。

佐々木 享